2024.11.25 パラオ通信NO.12
JICA海外協力隊　横田 美紗子

Alii!! FROM PALAU

柳沢小学校の皆さん、こんにちは！日本は寒さを感じる季節になってきましたか？先日、パラオも少し風向きが変わって、季節の変わり目を感じることができました。でも、気温は相変わらず30度です…。今回は、戦争時代におけるパラオと日本のつながりについて紹介します。

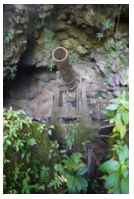
パラオと日本のつながりって？【戦争編】

世界一の親日国と呼ばれるパラオ

以前お伝えしたように、パラオはかつて日本の統治下にありました。第一次世界大戦後から第二次世界大戦終結までの約30年間です。その期間、日本はパラオに２万５千人の日本人を移り住まわせ、道路や電気、水道、病院、学校など日常生活を支えるものを整えて、パラオの発展に大きく貢献しました。こうした背景から、パラオの人々は日本に対して親しみをもっており、日本語や日本文化が深く根付いています。

最も激しい戦いのあった『ペリリュー島』

日本兵が作った洞窟の陣地跡


アメリカ軍の戦車と日本軍の大砲

日本とパラオの関係を語る上で、避けて通れないのが、ペリリュー島での戦いです。第二次世界大戦中、パラオは激戦地となり、特にペリリュー島は、アメリカ軍の予想をはるかに超える激戦地と化しました。アメリカ軍がわずか３日で陥落できると予想していた島は、日本軍の巧みな戦法により、２か月半もの間、激しい戦いが繰り広げられました。この戦いで、1万人もの日本軍の兵士が戦死しましたが、ペリリュー島の島民には１人の死者も出さなかったことでも有名です。なぜなら、アメリカ軍が上陸する直前に、日本軍はペリリュー島の島民を全員パラオ本島へ避難させていたからです。戦争が終わってもそれを知るすべもなく、生き残った日本軍の兵士たちは洞窟にたてこもり続けたそうです。終戦から2年半後、生き残った兵士たち34名は日本へ無事に帰国することができました。今でもこのペリリュー島をはじめとするパラオのあちらこちらに数多くの爪痕が見受けられます。

ペリリュー島には、上皇ご夫婦が訪れた「西太平洋戦没者の碑」というものがあります。上部には、目のモチーフがかたどられていて、その見つめる方角には日本があります。下部には雲をかたどったモニュメントがあります。戦争で亡くなった方の魂がこの雲に乗って迷わず日本へ帰れるようにと日本の方角を示す矢印も刻まれています。

パラオ通信質問フォーム

気になること、知りたいことがあれば、自分で調べたり、質問したりして解決してみてください。

（QR コードを読み取ると質問ができます。）